

住民が植えて育てて未来に伝えるあじさい街道

03

高知県高知市（旧春野町）



用水路沿いの歩道に全長5kmにわたってあじさいが植えられたあじさい街道。花好きの住民が植えたことに始まり、今でも住民が中心となって手入れしています。

毎年6月に開催される「あじさいまつり」には、地元の人たちだけでなく、たくさんの観光客も訪れ、季節の花を楽しみます。

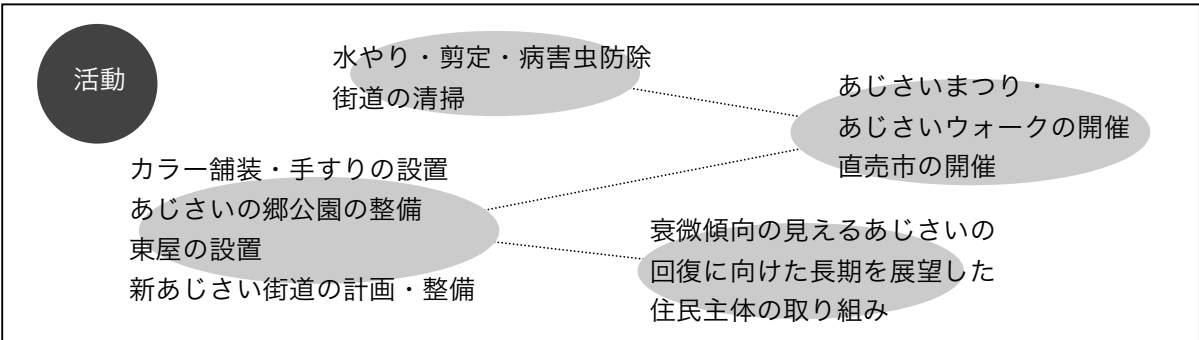
このあじさいの風景を将来にわたって伝えようと、地に足の着いた息の長い取り組みが進められています。



きっかけ



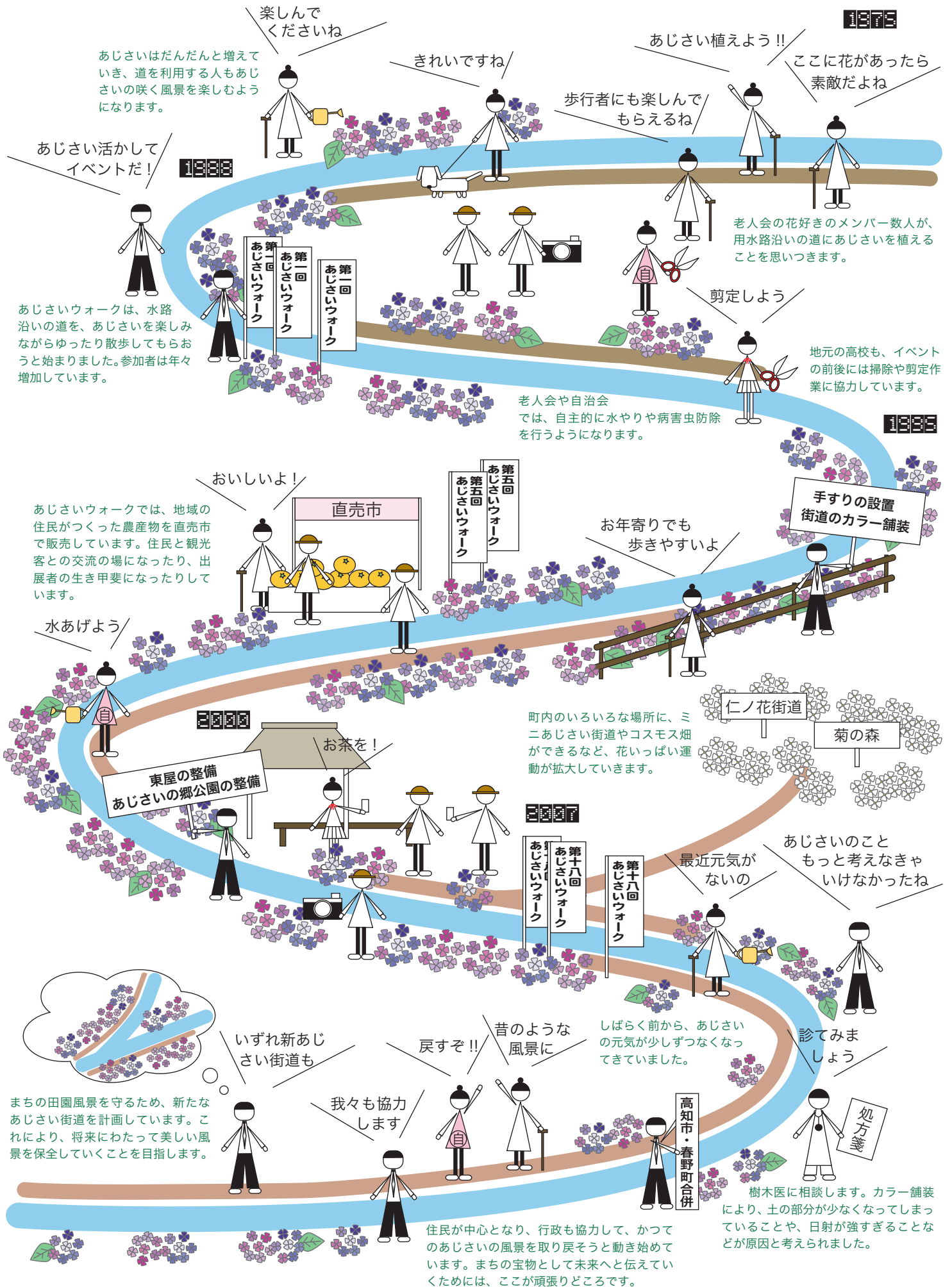
昭和50年、老人クラブの花好きの4~5人が、水路沿いに10数本のあじさいを植えた



効果

- 直売市などへの参加により出店者が生き甲斐を感じる
- 通勤通学者の心をいやす景観となっている
- 町内にミニあじさい街道やコスモス畑ができるなど、花いっぱい運動の拡大
- 観光客数の増加
- ふるさとの宝物となる風景として後世に伝えたいという意識が育まれている

老人クラブ・自治会	地元高校	行政
<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な水やり・病害虫防除、回復に向けた手入れ ○「あじさいまつり」前後の街道の掃除・選定作業 ○「あじさいウォーク」前後の直売市の出店 	<ul style="list-style-type: none"> ○「あじさいまつり」時期の街道の掃除・選定作業 ○「あじさいウォーク」で飲み物配布 	<ul style="list-style-type: none"> ○街道のカラー舗装、手すりの設置 ○東屋、あじさいの郷公園整備 ○「あじさいまつり」、「あじさいウォーク」の開催 ○新あじさい街道の計画 ○あじさいの回復に向けた支援



1973

あじさいはだんだんと増えていき、道を利用する人もあじさいの咲く風景を楽しむようになります。

楽しんでください

きれいですね

あじさい植えよう!!

ここに花があったら素敵だよ

歩行者にも楽しんでもらえるね

老人会の花好きのメンバー数人が、用水路沿いの道にあじさいを植えることを思いつきます。

あじさい活かしてイベントだ!

1983

あじさいウォークは、水路沿いの道を、あじさいを楽しみながらゆったり散歩してもらおうと始まりました。参加者は年々増加しています。

あじさいウォーク 第一回

剪定しよう

地元の高校も、イベントの前には掃除や剪定作業に協力しています。

老人会や自治会では、自主的に水やりや病害虫防除を行うようになります。

1993

あじさいウォークでは、地域の住民がつくった農産物を直売市で販売しています。住民と観光客との交流の場になったり、出展者の生き甲斐になったりしています。

おいしいよ!

直売市

お年寄りでも歩きやすいよ

手すりの設置 街道のカラー舗装

水あげよう

3000

お茶を!

町内のいろいろな場所に、ミニあじさい街道やコスモス畑ができるなど、花いっぱい運動が拡大していきます。

仁ノ花街道

菊の森

東屋の整備 あじさいの郷公園の整備

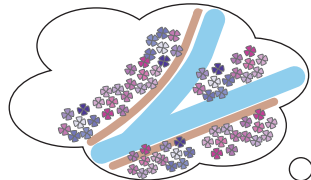
3000

あじさいウォーク 第十八回

あじさいウォーク 第十八回

最近元気がないの

あじさいのこともっと考えなきゃいけなかったね



いずれ新あじさい街道も

戻すぞ!!

昔のような風景に

しばらく前から、あじさいの元気が少しずつなくなってきていました。

診てみましょう

まちの田園風景を守るため、新たなあじさい街道を計画しています。これにより、将来にわたって美しい風景を保全していくことを目指します。

我々も協力します

高知市・春野町合併

処方箋

樹木医に相談します。カラー舗装により、土の部分が少なくなってしまっていることや、日射が強すぎるなどが原因と考えられました。

住民が中心となり、行政も協力して、かつてのあじさいの風景を取り戻そうと動き始めています。まちの宝物として未来へと伝えていくためには、ここが頑張るところです。

□ 景観まちづくりの3原則からみた成功のポイント □

原則1 《地域性》 歴史・文化・産業・意匠・構法・素材などの地域資源の再発見

● 地域農業を支える用水路に着目した花植え（景観づくり）

・あじさい街道は、老人クラブの数人が用水路沿いに十数本のあじさいを植えたことに始まります。用水路は、地域の農業を支える重要な施設であり、地域の人たちの暮らしに密接な関わりのある空間です。用水路が、暮らしに根づいた親しみのある場所であったからこそ、それに沿って自分たちであじさいを植えたいと思いつくことができ、また、長きにわたって手入れを継続できたことにつながっています。



用水路を彩るあじさい

- >>地域の暮らしに密接な関わりのある空間で景観まちづくりを行うことは、取り組みやすい上に、地域の人たちに景観まちづくりの進展や効果が見えやすいというメリットがあります。
- >>また、暮らしに身近であるがゆえに、景観まちづくりが継続的に行われれば、地域に根ざした個性として人々に広く認識されること（まちの個性づくり）も期待できるでしょう。

● 景観まちづくりと連携した地域産物の直売市

・あじさいの花が美しいシーズンに催される「あじさいまつり」や「あじさいウォーク」等のイベントと連携して、地域の農産物等の直売市が行われています。景観まちづくりの効果が来訪者数の増加という形で現れ、それが小規模ながら地域産業の活性化や経済循環にも伸展しています。イベントに参加する人が増えれば増えるほど、地域の産物に触れる人も増える格好です。

・あじさいの花を丹精して育てること、それを鑑賞し楽しむこと、農業の振興や農産物のPRを図ることなどが、うまく連携しています。出展者の生きがいにもなっています。



あじさいまつりに合わせて開催される直売市

- >>景観まちづくりの効果のひとつは来訪者（観光客）の増加です。それを地域の産業や経済循環の活性化と結びつけ、相乗効果を期待する視点から、景観まちづくりの展開を検討することもできます。
- >>また、直売市のような機会は、地元の農業者や住民と観光客等との交流や、出展者にとっての張り合いある楽しみや生きがいにつながる効果も期待できます。

原則2《推進体制》 早期からの適切な行政・市民・専門家のコラボレーション

●住民の自主的な参加によるあじさいの管理

- ・住民による花植えに始まったあじさい街道は、水やりや病害虫の防除、剪定などの日常的な管理は老人クラブと自治会の自主的な取り組みにより行われています。イベントの前後の時期には、地元の高校も掃除や剪定作業に協力しています。

- ・用水路沿いのあじさいの魅力が浸透するのに連れて、他地区においてもあじさいやコスモス等の植栽が進むなど、地域全体での花いっぱい景観まちづくりが進展しています。

>>持続的な景観まちづくりとするためには、地域の人たちが楽しみながら主体的に参加できることが大切です。

>>住民たちが手がけた景観まちづくりの成果には、他地区の住民等に対して、自分たちでも同様の取り組みにトライしてみようとする動きを誘発する効果があります。

●あじさい街道の快適性を高める公共空間の整備

- ・住民による主体的なあじさいの植栽（あじさい街道の形成）が進展するのを受け、行政もあじさい街道の魅力を高める公共空間の整備を行っています。具体的には、歩きやすさや安全性を高めるための用水路沿いの道路のカラー舗装や手すりの設置、憩いの場となる東屋やあじさいの郷公園の整備などを行っています。



イベント時には休憩所として活用される東屋

- ・このような公共空間の整備が、イベントの開催や観光の推進にも役立ちます。

>>住民等による景観まちづくりとうまく連動した身近な公共空間の整備は、景観まちづくりに取り組んでいる住民等に達成感や推進力を与えます。また、景観まちづくりと関連づけて整備された公共空間に対しては、住民らの愛着も深まりやすいと考えられます。

●あじさい街道を将来にわたる宝物として維持するための取り組み体制

- ・近年、あじさいの花の勢いが衰えてきてしまいました。樹木医の診断によれば、あじさいの根もと近くまで行った舗装により土が少なくなったことや、夏の照り返しによる輻射熱など、生育環境が厳しくなったことに一因がありそうです。水面にこぼれんばかりのあじさいを、ふるさとの風景として何世代にもわたって伝えていくための正念場という認識のもと、地元が一致団結した体制（協議会）をつくり、回復に向けて取り組もうとしています。

>>景観まちづくりでは、地域の景観を、長く受け継ぐべき大切な資産と認識して、守り、育てる意識が重要です。場合によっては危機意識などもバネにして、様々な立場の人が協働で取り組む体制づくりと地道な取り組みが欠かせません。

原則3 《実現性》 計画の実現のための資金や手法、運営等に対する細やかな配慮**●「あじさいまつり」、「あじさいウォーク」の開催**

- ・あじさいの植栽や管理等の地道な景観まちづくりが進展し、徐々に風景としての魅力を高めてきたのを受け、開花シーズンに「あじさいまつり」や「あじさいウォーク」といったイベントが継続的に行われるようになっていきます。

>>美しい景観を備えた空間をうまく活用するソフトを検討することが有効となります。例えば、本事例のように、景観の魅力を活用したイベント等を行うことにより、イベント参加者（来訪者）が楽しめるというだけでなく、景観の魅力を広く伝えたり、景観まちづくりに関わっている人たちの励みとできるなど、多面的な効果が期待できます。

●景観まちづくりを活かした原風景づくり：新あじさい街道計画

- ・老人クラブの人たちがあじさいを植え始めてから30年。地道な景観まちづくりの積み重ねは、できあがった景観としても、その過程の活動としても、地域の大きな財産となっています。
- ・その延長線上に、田園や里山、谷津田の風景にあじさいの彩りを添える活動により新しい原風景をつくり上げ、美しい田園風景を将来にわたって保全しようという「新あじさい街道」計画が検討されています。今あるあじさいも大切に守りながら、さらなる発展的な風景づくりを目指しています。

>>長く続けられてきた景観まちづくりの取り組みや考え方を、行政計画も含めた地域づくりのコンセプトとして取り入れることにより、地域づくりやその計画をいっそう住民に身近な実現性のあるものとすることができます。